

世界45カ所を地図と写真でめぐる ちょっと違う場所の一味違う物語

あの場所の意外な起源

断崖絶壁寺院から世界最小の居住島まで

発行：日経ナショナル ジオグラフィック社

日経ナショナル ジオグラフィック社（代表：中村尚哉、所在地：東京都港区虎ノ門）は、
『あの場所の意外な起源 断崖絶壁寺院から世界最小の居住島まで』を10月26日（月）に発行します。

本書は、断崖絶壁寺院、共産主義の理想都市、閉鎖された地下水生態系など、普通とはちょっと違う場所を世界中から集め紹介するビジュアル書籍です。

「偶然見つかった場所」「奇妙な起源を持つ場所」「無計画につくられた場所」「洞窟のような場所」「偶然が生んだ場所」の5つのカテゴリーに分け、全45カ所を掲載。アメリカ先住民が築いた大遺跡「カホキア墳丘」、偶然できた間欠泉「フライカイザー」、共産主義の理想都市「ノヴァ・フタ」など、誰もが一度は見てみたいと思う場所が満載。それぞれ、地図、写真、テキストで場所の成り立ちや発見などの意外な起源を伝えています。地図は、地球上のどの辺りにあるかを示す大ざっぱなもの、現地の詳細なもの2種類を掲載。写真で現在の姿をビジュアルで見る。テキストでは、その場所をめぐる、成り立ちや発見などの意外な起源、歴史の物語をわかりやすく解説しています。絶景を集めた写真集では、なかなか見られない、ちょっと違う場所の風景と物語を堪能できる一冊です。

あの場所の意外な起源 断崖絶壁寺院から世界最小の居住島まで

2020年10月26日発売／定価 2,400円＋税／208ページ／ソフトカバー／サイズ：天地228mm×左右163mm／
トラビス・エルボラフ、マーティン・ブラウン 著／湊麻里、鍋島僚介 訳／発行：日経ナショナル ジオグラフィック社



【主な内容】

- **偶然見つかった場所** マデイラ諸島（竜血樹の島）／デリンクユ地下都市（2万人が暮らせる複合施設）／タイタスビル（ワセリン発症の地）ほか
- **奇妙な起源を持つ場所** ジョージア植民地（理想の町への執念）／シュメイナス（再建の屋外壁画）／フリータウン（解放奴隷の居住地）ほか
- **無計画につくられた場所** ネフト・ダシュラリ（洋上に人が暮らす町）／マンシェット・ナセル（ごみの町）／カレタ・トルテル（チリのベネチア）ほか
- **洞窟のような場所** ラスコ洞窟（躍動する洞窟）／懸空寺（天上界を体現）／マトマタ村（「スター・ウォーズ」の舞台）／ほか
- **偶然が生んだ場所** 張掖丹霞地貌（万華鏡のような絶景）／スローブポイント（風が生んだ景色）／グラスビーチ（ごみの宝石）ほか

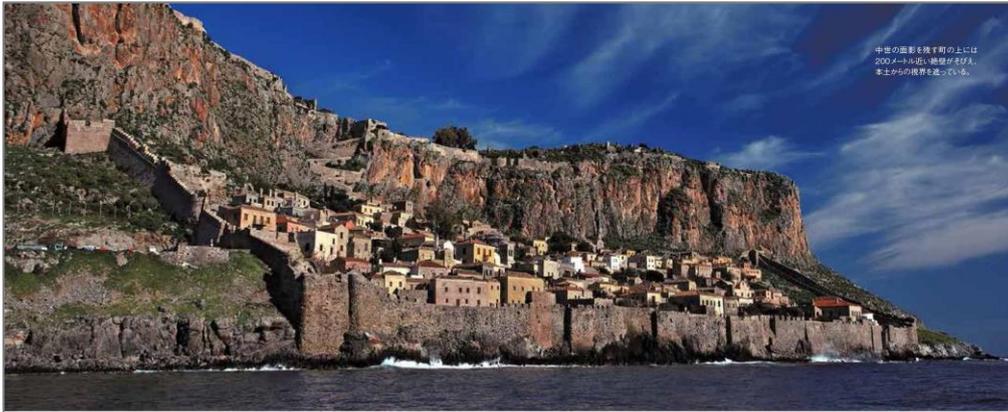
ナシヨジオストア <https://nationalgeographic.jp/atcl/product/20/100700031/>
Amazon <https://www.amazon.co.jp/dp/4863134800/>

- 普通の絶景写真集では満足できない！ 世界45カ所の一味違う物語を紹介。
- いつか行ってみたい！ 現地の詳細な地図も掲載。
- それぞれの場所の起源に関する歴史の物語をわかりやすく解説。
- 日本からも3カ所を紹介。

あの場所の意外な起源



10月26日発売/日経ナショナル ジオグラフィック社



中世の影を落とす町の上には、600年以上前の城壁が残り、本土からの侵襲を防いでいる。

快に切り開いて作られている。強い風が抜ける時期には、崖下で緑青色の海が怒り狂ったように渦を巻き、打ちつける。モネンバシアでは洪水が不足しているため、ユーゲ海のほかの高と比べても、嵐は—少なくとも雨は—とりわけ数週にわたる。

土手道の先にある長く湾曲した道を進み、町外れの建物をつくつた通りを過ぎると、いかめしい外観の大きな石壁に突き当たる。この壁にくり抜かれたアーチ状の細い通路が町の正面玄関であり、唯一の入り口だ。ロバと乗用車がやと通れるくらいの大きさしかなく、よく知らずやってくる者が先へ進むのを思いとどまらせる役割も果たしている。

だが、この幾分小さすぎる通路を抜けると、その先にはアラジンの洞窟のような建物が展開していく。時空を越えて作られたような町が山の上と下とにあり、下の町には12世紀以降、今も人が住み続けている。

ここがメインの町であり、当初作られた要塞や、石造の教会、修道院、中世の石造家屋が残っている。ほかにも、のちの時代の宗教施設—16世紀以降のオスマン帝国支配下時代に作られたモスクとドーナ、19世紀に商人が作った、緑意豊かなバルコニーのある豪華なカウンスハウスが残っている。一方、そこから傾斜した丘を登ると、廃墟と化した上の町が見れる。その大部分はひどく荒廃したまま放置されているが、キリヤ正教のアギア・ソフィア教会だけは美しい状態で保存されている。

壁の向こうの神秘

かつて軍事上および商業上の重要拠点だったモネンバシアは、歴史の痕跡が残る場所だ。壁や通路の至るところに、ビザンチン帝国、ベネチア、パチカン、オスマン帝国、そして現代キリヤ—戦時には占領下に置かれた—といった、それぞれの時代の痕跡が認められる。自動車が行き交う外壁を越えてこの町に浸透することはなかったが、そのせいで第二次世界

大戦後にこの地域が衰退していったとしてもおかしくなかったはずだ。一方で、ここ数十年のマスツーリズムによって、この場所が台無しにされていた可能性も同じくらいあっただろう。しかし実際には、車で入る場所が制限されたことで、代わりに土手道を流った先の本棚にあるアギアという町が発展した。この町は現住民の居住地になるだけではなく、旅行者の宿泊施設も多く受け入れている。そのおかげで、モネンバシアは遺産の保存に専念し、今も大衆観光のいい香を伝えることができる。こうして、壁の向こうの神秘が今も守られているのである。

114 無言のうちに作られた場所

115



2000年前に海抜で誕生
遺跡の内部の層層が積み重ねられた平野の周囲と対照し、大穴は平野に比べて全体的に高層で覆われていた。層層が降り、深い谷間の形成を促した。層層の崩壊や、新築の形成に似た現象により、この層層が崩壊して海抜に露出する。モネンバシアの層層は、約2000年前の層層が崩壊して、穴だらけの地形を形成した。

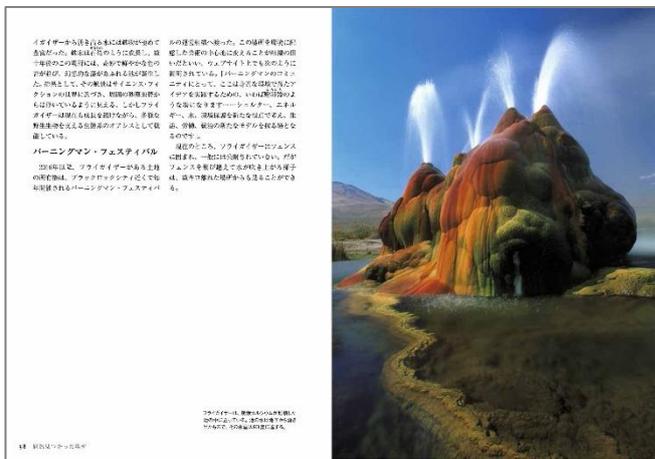
199 層層の崩壊

199



フライガイザー
アメリカ
フライガイザーは、熱湯を吹き上げる温泉の一種である。その名の通り、フライガイザーは、熱湯が吹き上がる現象を指す。フライガイザーは、大規模な噴火や地震によって形成された。その名は、フライガイザーの音に由来している。

生息圏のオアシス
フライガイザーは、乾燥した地域に生息する動物にとって重要な役割を果たしている。その水は、動物にとって貴重な飲み水であり、また、植物の成長にも役立つ。フライガイザーは、自然の恵みであり、人間の生活にも欠かせない存在である。



フライガイザーは、自然の奇跡であり、人間の生活にも欠かせない存在である。その水は、動物にとって貴重な飲み水であり、また、植物の成長にも役立つ。フライガイザーは、自然の恵みであり、人間の生活にも欠かせない存在である。

18 自然の奇跡

18

【報道関係からの問合せ先】 日経ナショナル ジオグラフィック社 広報事務局
株式会社リリオ 担当：仁地（にんち） TEL：03-6438-9195 090-2226-6459 ninchi.mikito@lirio.biz
日経ナショナル ジオグラフィック社 〒105-8308 東京都港区虎ノ門4-3-12